

流行とファッション

36期生

I テーマ設定の理由

だれでも、他の人が、自分よりいいものや自分の好きなものを持っていると、自分もほしくなることがあると思う。

今まで、小学生のころ、「あの子が持っているの私もほしいわあ」と思うものは、主に文房具やおもちゃだった。例えば、〇〇ちゃん人形とかミニカーの形をした消しゴムとか。しかし、小学校の高学年から中学生になるにつれて、文房具やおもちゃの他に、服装や髪形もまねしたいと思うようになってきた。今まで、あまり気にならなかったことを、急に意識しはじめたのだ。

自分の服装について考えてみると、今までは、親に買ってもらったり、選んでもらったりした服を、素直に身につけていた。ところが、2年ほど前からは、親が選んだものを、そのまま身につけることをいやがるようになってきて、自分にも好みがあるのだからと、自分で決めるようになってきた。このことから、服装や髪形が急に気になりだしたことがわかる。

私は、今まで別に気にならなかったことが、なぜ最近になって急に意識するようになったのか、疑問を持った。そこで、流行やファッションについてくわしく調べてみようと思った。

II 研究方法

[1]ファッションの背景と発展の歴史

[2]流行とファッションの定義

<図書館でいろいろな本から調べる>

<ファッション研究所に行き、意見を聞く>

[3]同年代の流行とファッションの調査

(この夏の街における服装からの考察)

<町にでて、同年代の人々の服装の組み合わせを調べる>

III 研究内容

[1]ファッションの背景と発展の歴史

1. エジプト、ギリシア、ローマ時代の服飾の変せん

古代エジプトは、小柄で身長が低く、熱帯性気候であるためもあり、腰巻きを、衣服の基準形態としたものと思われる。古代エジプトの服飾は、古代文明の流れによってギリシアに伝わる。ギリシア人の衣服は、長方形の布地をそのまま体に巻きつけ、細いベルトで胸をしめ、スカートがひろく調和を主としたもので、近代的なスタイルにちかいものだった。ローマは、気候温暖なイタリアにあるため、ローマ人の衣服は、ギリシア人の服装に多少

の変化をつけ、うけついで簡単なものでトーガと呼ばれた。トーガは、右脇下から斜めに左肩へ巻きつけることを原則としていて、トーガを着ることは、大ローマ帝国の市民の権威を示すもので、栄光のシンボルと考えられていた。

2. 中世ルネッサンス時代から、フランス宮廷時代の服飾の変せん

ローマ帝国がほろびて十世紀ごろ、十字軍の遠征により、東方文明とともに、その衣服と布地やブーツの原形である革の長靴などが、ヨーロッパに流入した。貴婦人のおしゃれの2大アクセサリであるこうもりがさとせんすがあった。しかし、中世においては、キリスト教の信仰による世論のあ

ばくが個人の自由な選択をさまたげ、ファッションは育たない時代だった。宗教的な社会からルネッサンスへの、個人的人間の解放につれて、人々は自由な意見を述べ、服飾に関する選択の自由がひろまった。最初は、布地を毛皮同様に単に

身体にひっかけたり、かぶったりしていただけで、「着る」ということは知らなかったが、布地を身体に合わせて裁断する傾向が生まれ、13世紀には、両脇を切り開いてひもでしめ、胸や腰の輪かくを示した。女性は、胸や腰に密着させて、その形を示すようになった。この時代の代表的な服飾は、騎士と貴婦人の服飾といわれている。フランスの貴族の社会は、14世紀から19世紀までが、最もさかんな時代だったが、その時代の服飾は宮廷ファッションともいわれ、王宮・貴族の上流社会の服飾がはじめて「ファッション現象」としてとらえられた。つまり、フランス・イギリス・オーストリアをはじめ、全ヨーロッパやロシアの宮廷でさかんに催されるパーティーでは、当時の女性たちが、お互いに美を競い合った。そこには、ファッションの芽生えがあったといえる。こうした王宮貴族のファッションの波は、しだいにブルジョア中産階級へと伝わり、うけつがれひろがっていった。

3. 近世の工業発達と、服飾の変せん

封建制がくずれて、自由な市民の出現、商業革命による新しい織りもの、服飾の生産技術の発達などで、ファッションの変化は加速度化してきた。なかでも、近代工業技術の発達(ミシン・シャックの発明)は、ファッションの素材、縫い方、裁ち方に決定的な変化をひきおこした。17世紀までは、長いスカートの内部では、女性の足は素足だったが、絹のくつ下が使用されるようになり、はじめて女性の足の美しさが表された。また、19世紀には、自転車に乗ることが流行し、自転車に乗るために活動的な服「ブルマー」などが考案された。工業技術の発達は、服装の変革を呼び、女性の生活を大きく



かえて、それは髪形や化粧のような美容法にあらわれた。

(2) 流行とファッションの定義

① 流行の定義

流行に関して、外国語が日本語として、転用されているものが多くなったが、それらの外来語の中で、「ファッション」は、服飾関係の流行をさしている場合が多い。ファッションは、その時代、時代の最も代表的な流行といえる。

流行とは、一定の趣味、思考、社会的・文化的行動様式といえ、通常、服飾・髪形、流行歌、およびその他の音楽、ゲーム、流行語、スポーツ、おもちゃなど、際限なく指摘できる。流行は、一定の期限の現象であるが、永遠的な習慣とは区別され、つねに新しいということが特徴である。また、いばりたい気持ち、きわだたせたいといった要求の反面、バスに乗りおくれまい、他人と同じことをしていれば安心といった同一化の傾向があらわれる。

② ファッションの定義

美しくありたいという人間の心から、さまざまなファッションが生まれてくることを考えると、ファッションは、一つの社会現象といえる。ファッション現象は、多面的な性格をそなえているので、その定義づけも、一定方向で決めるわけにはいかない。

いろいろな学者が、いろいろにファッションを定義づけている。例えば、「ファッションは、そのときに存在している文化のまざり合った形についての考え方である」また「ファッションは一定の時期にはやっているスタイル以外のなにものでもない」など。いろいろな学者たちの定義もふくめて全体を通じて、ファッションの特徴としてあげられているものを整理してみると、以下ようになる。

- 美的関心の共通性……ファッションは、美しさを求める人間の共通な本能・欲求から生まれる。
- 服飾における世論形成……ファッションは、人間の心がおたがいに交流しあうところではないと育たない。ファッションは、いわば服飾スタイルの世論であるから、政治的な世論と同じく、習慣の強い国や、自由が制限されている国の社会的土壌は花を咲かせない。
- 時期に適すること……ファッションが成立するためには、タイミングが必要である。ことに、四季や時期に関する場合には、ファッションは先取的な時期を決定する。
- 継続性と時限性……ファッションは、無限に続くものではない。ある時期がくると、いつのまにか消えてしまう。そこには常に変動がある。
- 変化テンポの加速性……ファッションの変化リズムは、社会変化の激しいところほど速く、ファッション交代の時間的短縮がおこなわれている。
- ラセンの進行……ファッションは過去のスタイルのまねではなく、新しいなにかを加えた過去のくり返しであり、同一化への欲求と、個性への欲求の争いをもとにして成長



近 代

するものである。

(3) 同年代の流行とファッションの調査

— この夏の街における服装からの考察 —

私は、カメラを持って、梅田阪急三番街付近、心斎橋付近、アメリカ村付近、枚方公園駅付近をまわって、具体的に街における流行風俗とファッションを調べてみた。同年代か、もう少し上の高校生、大学生のタイプを分類すると、ほとんどが、活動的な服装が多かった。だいたい4つのタイプに分類してみると、次のようになる。

<分類1>

仲間意識の強い同調派

仲間はずれにならないことを最優先にして、まだファッションを自分のものとして、とらえていない。



<分類2>

ファッションものまね派

おしゃれではあるがまだまだ個人的に着こなすまでには、至っていない。



<分類3>

流行に敏感な先取り派

流行をほぼ全面的にとり入れ、個性的であろうと努力している。



<分類4>

おとなしい感じのする常識派

清潔感を大切にしようそいきの感じがする。



写真の数では、分類1-8枚、分類2-7枚、分類3-2枚、分類4-2枚であった。

写真をとるのは、最初考えていたよりずっとむずかしく、とりたい人の動きや年代、光線のくあいなどがうまくびったり一致せずこれは、と思うのがだめだったりした。

～ 街頭でのインタビュー ～

必ずしも写真に写った人ではないが、話しかけやすそうな人に少しインタビューしてみた。その結果のまとめが下の通りになる。

(問1) 服は、すべて自分で買いますか？

中学生風な人……親といっしょに買い物にいて、相談して買ってもらう。

高校生風な人……自分で、または友達といっしょに買いものにいて買う。

(問2) どんなキャラクターマークが好きですか。

ミッキーマウス、スヌーピー、ポパイ、など。

(問3) 流行をとり入れる方ですか？

中学生風な人……わからない。

高校生風な人……とり入れたいけど、おこづかいが少なくて思うようにいかない。



[3]のまとめ

街にでて、同年代、もう少し年上の人たちの写真をとったり、インタビューをした結果として、仲間はずれになりたくない、個性的でありたいという理由で、今流行している服装をした人が(分類1.2.3)がほとんどで、分類4のように上下のそろったおとなしい服装をした人は少なかった。これらのことから、ほとんどの中学生、高校生が、自分の服装に「はやり」とか「友達の服装」を意識して、気をつけていることがわかる。また、インタビューからも、自分の服装は自分で決める人が多いことがわかった。

IV 結論

いままでは、大変着てみたい服や、興味のあるはやりのものは、だれがくふうしつくりあげ、どこからくるのか考えたこともなかった。しかし、今回このテーマにとり組んでみて、どこでも売っているような服も、いろいろな人が、むずかしい理論と過去の歴史からヒントを得て、あれこれ苦心したうえで生みだされたものということがよくわかった。

調べてきたこと、それらの考察から得たこととして —

1. 流行はファッションだけに限らず、髪形、音楽、ゲーム、スポーツなど、生活の周囲にあるあらゆるものを指している。そのなにかが、とつぜんインフルエンザのように全国をおそうことをいう。つまり、流行は、ファッションのように順をおってシーズンごとに発生せず、とつじょあるものだけが、ばく発的にはらんする現象といえる。
2. 流行は、自分を他の人から区別しようとするところからはじまり、また、その人に一致させたいと思うところからひろまっていく。
3. ファッションは、服飾を中心とした流行である。

の、3つのことがわかった。

ファッション研究所で教えてもらったところによると、去年は、海ぞくルック(パンツ類)や、バロック調(えりやそでにフリルのついた服)が流行しているようだ。それらは、私が調べたファッションの発展の歴史のなかで、17、8世紀ごろのフランス宮廷時代の服飾で、貴族たちが身につけていた服飾と似ている。このことから、今のファッションに現代的に少しずつ変わってはきているけれど、古い時代のファッションからデザインのヒントを得たり、忘れられたものがくりかえし復活したり、大変関係があることがわかった。

V 感想・反省

最初はおもしろそうなテーマだと思いとりあげてみたが、資料になる本には英語やフランス語が多くて、言葉の意味がわかりにくくなかなか研究は進まなかった。しかし、街にでて写真をとったり、インタビューしたり、調査していくうちに、だんだんこの研究がおもしろくなってきた。はじめ、予想していたのとは、少し方向がちがっていたが、自分では精いっぱいやれたと思う。

このテーマは、まだまだ範囲が広く、調べたいことも残ったので、次の機会にまた調べようと思う。